

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農林水産部長

令和4年度 兵庫県農業気象技術情報第4号(8月情報)について(送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育</p> <p>県南部の極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈が平年並～やや短く、茎数は多い。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べて短く、茎数は「ヒノヒカリ」で極めて多く、「きぬむすめ」でかなり多い。</p> <p>県北部では、草丈はやや短く、茎数は極めて多い。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや早くなる見込みである。</p>	
		<p>2 栽培管理</p> <p>早・中生種では、穂肥診断をもとに、適切な穂肥時期、施肥量を判定する。極早生種では、成熟期まで適切な水管理を行い、落水を急がない。出穂後、高温が予想されるので、可能なほ場では夜間の掛け流しかん水に努める。</p> <p>特に乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、登熟期の水管理は、湿潤(飽水)状態で行い、根の活力の維持に努める。</p>	
		<p>3 病害虫</p> <p>(1)7月上旬における県全体のいもち病の発生は、やや少ない発生であったが、今後は平年並の発生が予想される。</p> <p>また、中山間部や河川沿いのほ場では、露などによる葉の濡れ時間が長いことなどから、一部の地域でいもち病の発生がやや多くなることが予想される。</p> <p>(2)紋枯病の発生は、県全体ではやや少ない発生である。今後、発生は平年並と予想される。</p> <p>(3)ウンカ類の今後の発生は、ヒメトビウンカはやや多く、セジロウンカ、トビイロウンカは平年並と予想される。今後、気温が上昇してこれらの害虫の増殖に好適な条件となるため、発生の推移に留意する。</p> <p>(4)斑点米カメムシ類は、本田周辺で例年より早い時期から発生が確認されており</p>	<p>3 病害虫</p> <p>(1)箱施用剤は移植後、概ね1ヶ月半頃から効果が減退する。また、ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などほ場内に入ってよく観察し、いもち病の発生の有無を確認する。発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。</p> <p>薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」を参考に選定し、適正に防除する。</p> <p>(2)ほ場ごとに発生状況をよく確認し、発生が認められた場合には、出穂前に薬剤防除を行う。</p> <p>(3)ウンカ類に対して長期的に効果のある箱施用剤を施用している場合でも、処理後日数の経過に伴って効果が低下するので、その後の発生に注意する。</p> <p>(4)斑点米カメムシ類の発生状況を確認した上、乳熟期～糊熟期に広域的に一斉防除を</p>

		、今後はやや多い発生になると予想される。特に、7月中旬以降、出穂の有無にかかわらず、イネカメムシが多く発生しているほ場がある。	行う。畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに完了させる。出穂間近の畦畔除草は、ほ場内へのカメムシ類の移動を促進するので避ける。なお、出穂前でもほ場内に多くイネカメムシが発生している場合は薬剤防除を行う。詳細は7月29日発表の令和4年度病害虫発生予察防除情報第4号を参照する。
大豆	全 県 共 通	1 生育 晩播の出芽は順調であるが、6月播種の品種では、早い梅雨開けと小雨の影響で出芽が遅れ、生育もやや遅れている。一方、ゲリラ豪雨の影響を受けた排水不良田では、湿害や立枯症状が認められる。	
		2 栽培管理 降雨後は、ほ場内に雨水が滞水しないように、排水対策に努める。 土壌が乾燥する場合には走り水を行う。開花始めから子実肥大期までの期間は水分保持が最も重要な時期なので、ほ場の乾燥には特に注意する。	
		3 病害虫 (1)立枯性病害、紫斑病の発生に注意する。	3 病害虫 (1)立枯性病害、特に茎疫病は谷水灌がい実施後等、排水対策の徹底が重要である。高温乾燥時にはかん水が必要であるが、急激に水を入れると根に負担がかかり、茎疫病にかかりやすくなるため、徐々に水を入れ、ほ場に水を溜めっぱなしにしない（あくまで走り水程度）。紫斑病対策としては開花期に防除を行う。
		(2)ハスモンヨトウについてはキャベツの項を参照。 カメムシ類については周辺雑草が好適な繁殖場所となるため、発生に注意する。	(2)ハスモンヨトウの若齢幼虫は、集団で葉上に棲息しているので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。カメムシについては、着莢初期～子実肥大期に防除する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に選定し、適正に防除する。
キャベツ	全 県 共 通	1 栽培管理 (1)高温期の育苗となるため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。	1 栽培管理 (1)ベンチ等での浮かし育苗とし、かん水の過不足がないよう注意するとともに、苗が徒長しないよう日没前のタイミングでのかん水を控える。
		(2)セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。	(2)早めに液肥を施用する。
		(3)降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。	(3)高畝栽培とし、明きよ等の排水対策を徹底する。
		(4)定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。	(4)土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分かん水し、活着を図る。
		(5)除草剤（土壌処理タイプ）の散布タイミングを逃さないよう注意する。	(5)散布直後に降雨にあたらないう天気予報を確認し、計画的に作業を行う。

	<p>2 病害虫 7月中旬におけるフェロモントラップへのハスモンヨトウの成虫誘殺数は平年並、シロイチモジヨトウはやや多い状況であるが、誘殺数は増加傾向を示している。今後、ほ場で例年より本種の発生がやや多くなるおそれがある。 ハイマダラノメイガの発生は、7月上旬ではやや多く、今後もやや多い発生が予想されるため、被害に対する注意が必要である。</p>	<p>2 病害虫 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの若齢幼虫は集団で加害するので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。 ハイマダラノメイガは、育苗期や定植直後に加害を受けると被害が大きいので、予防的な防除に努める。「病害虫発生予察情報」、「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>										
果樹	<p>1 栽培管理 (1)高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。 (2)樹勢に応じた着果調節及び枝管理に努める。 (3)適期収穫に努める。</p>	<p>1 栽培管理 (1)高温乾燥が続く場合は土壌水分管理に特に注意が必要である。急激な土壌水分の変化を避けるため、敷き草等のマルチを行うとともに、晴天が続く場合には適度なかん水を行う。ブドウでは果実の日焼け防止に傘かけが有効である。 (2)樹種ごとの適正着果量とする。必要以上に枝葉が繁茂している場合は、新梢管理、夏期剪定を行う。 (3)カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。</p>										
	<p>樹種別の生育状況（7月3半旬時点）</p> <table border="1"> <tr> <td>クリ</td> <td>生育は平年に比べ3日程度早く、着果は良好である。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>生育は平年よりやや早く、着色は良好であるが、果実肥大は不良。</td> </tr> <tr> <td>ナシ</td> <td>果実の生育は昨年比で4～5日遅く、平年比で2日早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>着果始めは平年に比べ6日早く、新梢の生育は平年より早い。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>品種による着果量の差が大きく、早生で多い。果実の生育はやや遅く、生理落果は平年並みである。</td> </tr> </table> <p>調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市</p>		クリ	生育は平年に比べ3日程度早く、着果は良好である。	ブドウ	生育は平年よりやや早く、着色は良好であるが、果実肥大は不良。	ナシ	果実の生育は昨年比で4～5日遅く、平年比で2日早い。	イチジク	着果始めは平年に比べ6日早く、新梢の生育は平年より早い。	温州ミカン	品種による着果量の差が大きく、早生で多い。果実の生育はやや遅く、生理落果は平年並みである。
クリ	生育は平年に比べ3日程度早く、着果は良好である。											
ブドウ	生育は平年よりやや早く、着色は良好であるが、果実肥大は不良。											
ナシ	果実の生育は昨年比で4～5日遅く、平年比で2日早い。											
イチジク	着果始めは平年に比べ6日早く、新梢の生育は平年より早い。											
温州ミカン	品種による着果量の差が大きく、早生で多い。果実の生育はやや遅く、生理落果は平年並みである。											
	<p>2 台風対策 気象情報に留意し、台風の接近が予想される場合は右記の対策を行う。</p>	<p>2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱の強化を行う。防風ネットの補強や防風林の適切な刈り込みを行う。収穫可能な果実はできるだけ収穫しておく。雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口を点検する。 台風通過前から、病害予防のため薬剤防除を行う。イチジクは腐敗果を速やかに園外に持ち出し処分する。</p>										
	<p>3 病害虫 7月中旬のナシ黒斑病は平年よりやや多い発生であり、今後もやや多い発生が予想される。 果樹カメムシ類は、やや多い発生が続</p>	<p>3 病害虫 カメムシ類の飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。詳細は7月8日発表の令和4年度病害虫発生予察防</p>										







	<p>いており、8月以降に次世代成虫の出現期を迎えることから、ナシの他、多くの果実への加害が懸念される。</p>	<p>除情報第3号を参照する。 防除薬剤については「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に選定し、農薬使用基準を守るとともに周辺農地への飛散防止に努める。</p>
--	--	--

◎水稲・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。
※本情報は、8月1日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報





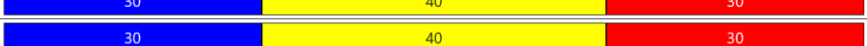

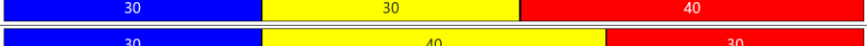


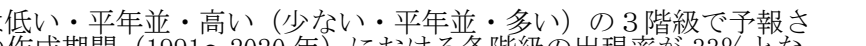
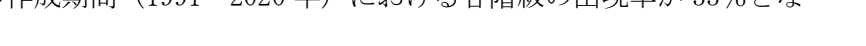

近畿地方 1か月予報 (07/30~08/29)		
2022年07月28日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	なし。	
向こう1か月 07/30~08/29	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
1週目 07/30~08/05	気温	1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
2週目 08/06~08/12	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3~4週目 08/13~08/26	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 07/30~08/29	
		1週目 07/30~08/05	
		2週目 08/06~08/12	
		3~4週目 08/13~08/26	
降水量	近畿地方	向こう1か月 07/30~08/29	
日照時間	近畿地方	向こう1か月 07/30~08/29	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (08月~10月)		
2022年07月19日14時00分 大阪管区気象台 発表		
08月~10月	気温	平均気温は、高い確率50%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
09月	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	08月~10月	
		08月	
		09月	
		10月	
降水量	近畿太平洋側	08月~10月	
		08月	
		09月	
		10月	
	近畿日本海側	08月~10月	
		08月	
		09月	
		10月	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病害虫防除所（病害虫発生予察情報）」
<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html
- ・「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」
http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0_01_33.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078)341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
 - 農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>分類から探す>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)